

ワカサギは今年、どう
だろう。

7月21日の魚は、いかが
でしたか。内水試では6月
から、数回の試験びぎを
行って来ました。それと、
解禁日の漁獲量の結果
とから、今年の魚を占めて
見ます。まず、試験びぎ
の結果は平均約20分
でしたから「2号」のグラフ
から20分ぐらいとなり
ます。解禁日の漁獲
量は2-140kgで平均
32kgです。解禁日漁獲量
から推定すると30%とより
ますから、この辺が霞ヶ浦
の年間漁獲量となりそ
うです。北浦では試験び

水質

まで 40尾/20分で昨年、50
年の一・五倍、簡単に昨年の
漁獲量の一・五倍すると
20%とあります。(北浦の試
験びぎの資料は霞ヶ浦にく
うべて少なく精確ではないが)
両方合せて 450、500とよ
りますが、はたしてこんな
ものでしょうか。

解禁日の7月21日には、
酸素量は多く霞ヶ浦で
は全く問題となる地点は
ありません。良好でした。
北浦も良好でした。江川
でや、低く表面で4.6、下
で3.4%でした。北浦では、
その後、底でや、低目
の値が見られるようです。
つゆあけ、ことも、水温も
上昇し、原玉動物や動物

プランクトンが少なくなり、
アオコ、その他の植物プラン
クトンが増えて来ました。
7月23日の観測では透明度
が、三又沖で13m、自來で
14mですから、その量は
未だ極めてわずかです
が、水温の上昇、にもなっ
てどのように変化していくか
が問題です。

ハクレンの種苗生産
始まる。

アオコを食べて大きくな
るので注目を集めている今
年は利根川中流域で、
6月中旬から7月中旬にか
けて、大雨のあとに産卵
します。今年は、どうし
たわけか、仲々産卵せず
7月21日にやっと、卵が
利根川より当水試のふ化

槽へ入りました。800万
粒の卵は慎調にふ化し
一センチぐらいの仔魚は
7月26日に、動物プラン
クトンのいる稚魚池に
うつされます。

7月24日の酸素%

場所	表層	底層
常陸川	9.0	6.2
下野川	10.1	5.5
八木川	9.0	7.0
内田川	7.7	5.3
田代川	7.6	6.1
手賀川	8.4	7.7
三又沖	7.1	6.3
牛久保	6.5	5.9
不内川	6.2	6.8
江川	4.6	3.4
三和川	6.2	4.5
碓氷川	5.5	5.5
碓氷川	8.6	5.4

7月 7-8日の水質

種類	pH	DO	COD	BOD	T-N
不内川	8.2	1.0	4.1	3.1	.90
三又沖	8.3	1.1	4.6	2.9	.95
高山	8.4	1.0	4.6	7.7	.68
白馬	9.3	1.1	4.8	4.8	.88
馬渡	9.1	1.1	4.0	7.1	.78

↑
透明度